

# 平成29年度 定期総会・全体研修会 を開催しました！

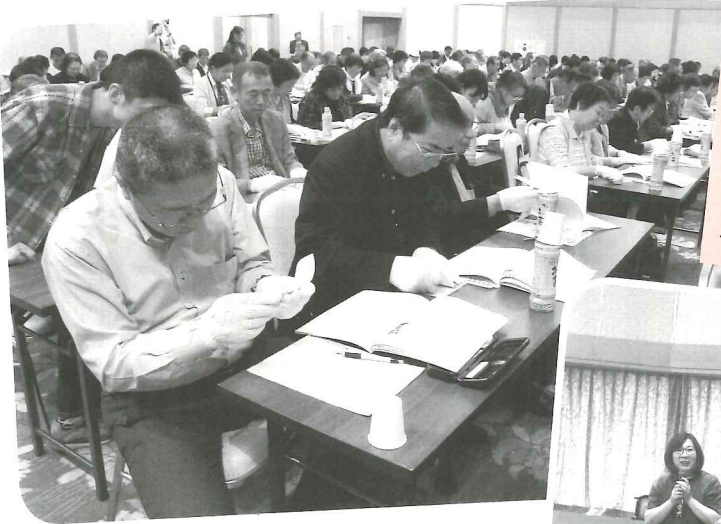
●●●●● 平成29年6月4日(日) 呉羽ハイツ ●●●●●



第165号  
 富山県手をつなぐ育成会  
 富山市安住町5-21  
 富山県総合福祉会館内  
 TEL 076-441-7161  
 FAX 076-441-7255  
 mail toikusei@minos.ocn.ne.jp  
 HP <http://toyamaikusei.jp/>  
 発行責任者  
 平野 幹夫

みなさんの会報です  
よく読みましょう

おたがいに  
気づかう心で  
明るい社会



千葉県・市川市より、キャラバン隊  
 「空」の皆さんをお迎えし、  
 「理解啓発活動」のプログラムを  
 体験しながら、学び合いました。



## 速報!!!

▶▶▶ 第50回手をつなぐ育成会東海北陸大会 (富山大会) ◀◀◀  
 10月21日(土)、22日(日)、富山市で開催いたします！ (8・9頁をご覧ください。)

平成29年6月4日(日) 呉羽ハイツ

# 平成29年度 定期総会・全体研修会

全体研修会 講師 関哉 直人氏 (弁護士、全国育成会連合会 権利擁護委員)  
キャラバン隊「空」(市川手をつなぐ親の会)

— 人権は かけ声よりも 心がけ —

今年、10月開催の東海北陸大会に県大会(創立60周年記念大会)を併催するため、呉羽ハイツを会場に、定期総会と全体研修会を併せて開催しました。

多くの知的障害者を襲った「津久井やまゆり園事件」から、1年を迎えようとしています。

加害者による、「障害者はいなくなればいい」という言葉と、そのような差別意識を支持し、助長するような一部の人たちの声。

今、改めて、この事件が起きた社会的背景や、障害者への差別意識について問題意識が高まっています。

この事件は、「障害者差別解消法」が施行された、約3か月後に発生しました。法律や条例はできましたが、障害者への無理解や偏見、差別といった意識は、まだまだ根深くあるのが現実です。

そんな中、全国の育成会や親の会を中心に、知的障害者の疑似体験を通して、障害について「知ってもらい、理解を深めてもらう」といった啓発活動の輪が広がっています。

今回の全体研修会では、差別や偏見がなくなることを願い、障害者の権利擁護と地域に向けた理解啓発活動について、学び合う機会としました。

## ■基調講演

### 「地域での理解啓発活動」

子ども達への啓発をめざして

はじめに、弁護士で、全国手をつなぐ育成会連合会・権利擁護センター委員の関哉直人さんより、学校や地域に向けた理解啓発活動の大切さについて、お話ししていただきました。



関哉先生は、障害のある人の権利擁護について継続的に取り組まれています。子どもたちに向けた、学校での

理解啓発活動『学校プロジェクト』の推進もその一つです。

これまで、グループホーム建設に反対する地元住民との交渉してきた経験や、虐待や差別といった事実から、障害を「知らない」ことや、子どもの頃から、障害のある人と出会ったり、関わったりした経験がないことが、偏見や無理解に繋がっているのではないかと感じておられます。

そこで、幼少期から、障害を知ることによって、大人になった時に、障害への向き合い方が変わるのではないかと思い、『学校プロジェクト』の活動を全国に広げようと、奮闘されているとのことでした。

ここまで聞くと、子どもたちへの啓発活動は確かに大切だけど、一体、どんな方法があるの？難しくないの？学校にどうやって入ってほしいの？という不安が駆け巡ります。



そこで、その取り組みとして、地域の育成会などが行っている、「キャラバン隊活動」を紹介し、具体的な活動内容や、子どもたちの感想、活動の進め方などを説明していただきました。

「キャラバン隊活動」は、学校への出前講座として行い、子どもたちと直接交流しながら、障害の疑似体験等を通して、特性や、障害者本人、家族の「思い」を伝えます。終了後、子どもたちから、『これまで障害者のことをバカにしていたのですが、私たちと同じように生きている、苦手なことがあるだけだとわかりました。』という素直な感想が寄せられたり、キャラバン隊に駆け寄ってきて、自分の経験を話してくれたりという場面もあるそうです。

勿論、「教育」の中に入り込んでいくのは、なかなか難しいことですが、折しも「やまゆり園事件」の再発防止策には、学校教育をはじめ、あらゆる場における「心のバリアフリー」の取り組みを充実させるようにと述べられています。また、国でも、パラリンピック

開催に向けて、幼児期から青年期にかけて、切れ目なく「心のバリアフリー」教育を展開する、「ユニバーサルデザイン2020行動計画」を決定しています。

これらの好機を逃さず、まずは、この活動を色々な人に知ってもらう、口コミで広げてもらうことや、社会福祉協議会等との連携や仲介、支援学校に勤務する校長や教員の紹介等から、学校へのルートを作り開くことをあげられました。

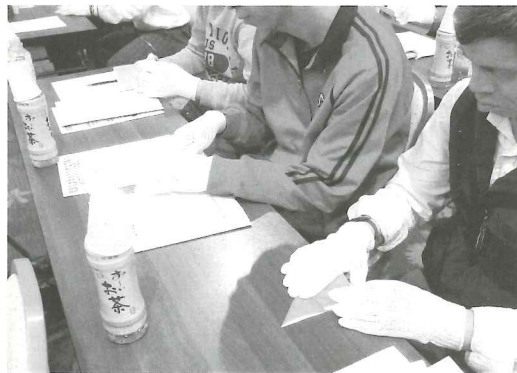
また、何よりも、「知的障害や発達障害の理解啓発活動をしたい！」という思いをストレートにぶつけることが大切であると述べられ、「皆さんも、ぜひこの活動を広げてください。」と、富山での活動にエールをいただきました。

### 市川手をつなぐ親の会 キャラバン隊「空」の実演

研修の後半は、結成から13年、現在に至るまで約250か所での公演をされてきた、キャラバン隊「空」(千葉県市川市)の皆さんに、登場していただき、活動の実演と、

活動への思い、これまでの経験等を語っていただきました。

軍手をはめて鶴を折る体験には、参加者全員でチャレンジ。



折り紙を思うように扱えないところに、「早く!」「遅い!」「もつときれいに!」と声が高鳴りました。体験後、参加者からは、すごく焦った、イヤになった、悲しくなった等の感想がありました。

子どもたちからも、同様の感想があるそうです。

このように障害を知ること、体験することで、接し方や声のかけ方といった「気づき」を促し、

「思い」を育んでいくのです。代表の平野さんは、この活動を始めたきっかけを、障害のある娘さんが小さい頃、バカにされたり、孤立したりしている姿を見て、周囲の人たちに何とか理解してもらいたいと思ったことをあげられました。

キャラバン隊活動では、「障害のあるわが子も、家族も決して不幸でも可哀そうでもない。理解されないことが不幸であり、私たちが子どもは特別ではなく、みんなの中の一人です。」という思いを伝えていくそうです。

富山県育成会でも、このキャラバン隊に取り組みたいと考えています。研修後、「空」の皆さんの周りには、関心を持った方が集まってこられました。

「空」の皆さんは、私たちと同じ、お母さんたち。障害のある子どもの特性や、親の思いを率直にわかりやすく届けています。

育成会ができること。子どもたち、地域の方々に向けた理解啓発活動、一緒にやってみませんか?

# 平成 29 年度 富山県予算に対する要望回答

毎年、県当局及び県議会自民党県連政務調査会に対して、「予算要望書」を提出し意見を述べる機会をいただいております。今回、県議会自民党県連政務調査会からいただいた「平成 29 年度予算要望」に対する回答の中からいくつかご報告します。

全体回答については、各支部長さんに送付していますので、必要な方は、支部長さん、又は事務局へお問い合わせください。

**県条例や「差別解消ガイドライン」の普及・啓発のため、行政機関職員研修や各種団体への出前講座の実施、良い配慮事例の収集・PR などを通して、実効性を高める知的障害者理解啓発の推進**

県では、新採職員や新任係長・所属長代理、新任警察官に対して県条例に関する講義を行っているところであり、市町村においても職員向け研修を実施するよう、引き続き働きかけてまいりたい。

また、ガイドラインには、良い配慮の事例など具体例を盛り込み、県内各団体への周知や講師派遣を行っているところであり、引き続き、周知啓発に努めてまいりたい。

(障害福祉課)

**市町村における「差別解消支援地域協議会」の設置と、相談体制の整備を促進し、地域における障害特性の理解啓発とそれに伴う環境整備の推進**

「差別解消支援地域協議会」については、現在、10 市町村が設置済、4 市町が設置予定であり、引き続き、地域協議会の設置や障害特性等の理解啓発等について、市町村に働きかけてまいりたい。

(障害福祉課)

**教職員に対する知的障害特性や合理的配慮についての理解啓発研修の充実など、特別支援教育の充実強化**

県では、障害者権利条約の批准や改正障害者基本法の趣旨、4 月から施行された障害者差別解消法の趣旨を踏まえ、児童生徒への支援を一層充実するため、教職員の専門性を高める研修を学校や教職員の要望や実情に応じて実施しているところである。

特別支援学校では、「特別支援学校障害種別研修」において、各学校の実情に基づき、外部の専門家を招へいし年間 5 ～ 6 回の研修を行っている。

また、小・中学校の特別支援学級や通級指導教室で指導を受ける児童生徒が増加し、発達障害の可能性のある児童生徒が小・中学校の通常の学級や高等学校に在籍していることから、小・中・高等学校すべての教員に、特別支援教育に関する一定の知識・技能を習得することができるよう、教職員の採用 1 年次、6 年次、11 年次等のキャリアステージに応じた指導力向上のための研修を充実するとともに、合理的配慮の提供に

向けた指導助言や研修支援を行う小中学校巡回指導員や、全ての高校を特別支援教育の専門家が巡回して指導助言を行う高等学校巡回指導員の配置等により、特別支援教育がより一層充実するよう努めている。

(県立学校課)

**障害者の高齢化や認知症化、重度化に対応できるよう、障害福祉制度と介護保険・医療との連携**

本年成立した改正障害者総合支援法において、高齢障害者の費用負担の軽減等の措置が盛り込まれるとともに、現在、国で審議中の地域包括ケアシステム関連法の一部改正において、障害や介護等の縦割りのサービスを越えた共生型サービスの創設なども盛り込まれているところであり、県としても、国の動向を踏まえ、適切に対応してまいりたい。

(障害福祉課)

**災害時における知的障害者専用の避難所や一般の避難所の中での専用スペースの確保など、障害者の避難対応策等の具体化に向けての啓蒙・啓発**

今後、障害者の避難対応策等について具体化するよう市町村にあらためて働きかけるとともに、災害時における知的障害者専用の避難所や一般の避難所の中での専用スペースの確保については、他県の情報収集に努め、先行事例等があればあわせて市町村へ周知してまいりたい。

(障害福祉課)

**知的障害者に配慮した就労促進と雇用の拡大・定着が図られるよう、雇用現場での障害特性の理解啓発研修や合理的配慮の周知・徹底**

- ① 障害者の雇用を促進するため、県下4圏域に設置の障害者就業・生活支援センターによる障害者の就業支援
- ② 同センターを通じての短期の職場実習（障害者チャレンジトレーニング事業）の実施
- ③ 一定数を超えて知的・精神障害者を雇用している事業主に対する県単独での雇用奨励金の支給
- ④ 障害者雇用推進員による求人開拓や障害者雇用施策の周知啓発
- ⑤ 障害者雇用優良事業所等の知事表彰
- ⑥ 富山労働局との共催による障害者合同企業面接会の開催
- ⑦ 中小企業等を対象に、障害特性や障害者雇用について理解を深め、合理的配慮の周知・徹底のための障害者雇用実務講座の開催
- ⑧ 障害者雇用に積極的に取り組む企業の認証（とやま障害者フレンドリー企業）などに、引き続き、取り組む。

(労働雇用課)

もしもの時に  
備えよう！



平成29年6月23日(金) サンシップとやま

<富山県育成会 学齢期部会 研修会>

# 障害のある子どもと、親のための 「お金」と「ライフプラン」

講師 又村 あおいさん

(全国手をつなぐ育成会連合会 冊子「手をつなぐ」編集委員)

— なくそう差別 守ろう人権 —

皆さんは、お子さんに将来、どのような生活を送ってほしいと思っていますか？

障害のある人が、安心して豊かに暮らしていくためには、生活スタイルや、ライフステージに沿って、「どんなサービスを利用するのか」、「お金」はどれくらい必要なのかを考えておくことが大切です。

今回は、又村あおいさんを講師にお招きし、学齢期のお子さんを持つ方を対象に、地域で暮らすために「お金」という観点から、親として今から準備できることを、お話していただきました。

なお、この研修会は「ゆうちよ財団」の助成を受けて実施しました。

学齢期会員 Yさん

「具体的なお金の話に愕然。

いろいろ実感しました！」

今回の研修会に参加したのは、学校を卒業した後、障害のある子どもに、どれぐらい「お金」がかかるのか、そして、まだ先のことですが、親亡き後のことも気になっていたのでした。

同世代の保護者の方が集まり、講師の又村さんも親しみやすく、和やかな雰囲気です。研修会は始まりました。



最初に、幼児期から学齢期、学齢期から青年期、青年期から老年期のライフステージ毎に、どんなことが起こるのか、それぞれのポイントの説明がありました。

私たちの子どもは、これから「青年期」へと移っていきます。

学校卒業後に就労するのか、福祉サービスを利用するのか、どんな暮らし方をするのか、個々の違いはありますが、ここでのポイントは『親からの巣立ち』ということでした。

我が家では、子供の学校卒業後には作業所を利用し、しばらくは家族一緒に暮らしたいと思っていますが、将来はグループホーム

(以下GH表記)の利用も考えています。

ところが、ここから成人期以降の「生活(暮らし)」にかかる具体的な収支の説明を聞いて、愕然としてしまいました。

GH利用を想定した場合、どうしても「赤字」なのです。

主な「収入」は、障害基礎年金、工賃、GHの家賃補助。それに対し「支出」は、家賃、食費、光熱水費、日用品と嵩みます。

他に、趣味や好きなことに使う小遣い、被服費なども必要になってきます。

そうすると、障害基礎年金1級であっても、月々約3万円近くのマイナスになってしまうのです。



そこで、不足分は親が小遣いを渡せば大丈夫、親がいるから大丈夫、と思いがちですが、ここで考えなければいけないのが、「親は、いつまで子供の面倒を見られるか」ということでした。

### 親亡き後よりも、 親の支援なき後を考える

将来に向けた「お金」や「ライフプラン」を考える時に重要なのは、親と子どもの年齢を併せながら、親亡き後よりも、もっと前の段階、「親の支援なき後」のことを考慮することが重要だと言われ、ハッと目が覚めました。

#### ＝では、どれくらいのお金が必要？＝

月の不足額 30,000円×12月  
年の不足額 360,000円  
親が70歳のときの本人の年齢 40歳  
平均寿命 80歳  
不足額を埋めるべき年数 40年

30,000円×12ヶ月×40年＝  
**14,400,000円**

親が資金面、体力面から、子供の面倒を見られるのは70歳頃まで、親が70歳の時、子供が40歳と仮定し、子供が80歳まで生きたとしたら、

ら、どれぐらいの「お金」が必要なのか表したものが、上の表です。

必要なお金は約1500万円。具体的な数字に、また愕然。

後半は、この1500万円をどう蓄えるか、どう残すか、という視点から、「公的制度」と「私的な備え」のお話がありました。

- ◆ 障害基礎年金
- ◆ 心身障害者扶養共済制度
- ◆ 障害者マル優
- ◆ 新型福祉定期預金
- ◆ 医療保険、損害賠償保険
- ◆ 信託制度

保険への考え方や、さまざまな信託制度については、もう少し詳しく知りたいと思いました。

また、子ども名義の貯金にも注意が必要だとわかりました。初めて聞いた制度や商品もあり、大変参考になりました。

最後に、参加者それぞれが、子供と親の年齢をシートに書く時間がありました。

表に年齢を書いてみると、子供が30歳の時には、私たち両親は60代、自らの生活環境にも大きな変化が訪れる頃です。

私たち親は、いずれ誰もが高齢になります。

金銭的、体力的に見ても、いつまでも子供の面倒を見ていけるわけではないと自覚しておくことが大切だと、本当に書いてみて実感しました。



今回のお話は、具体的な数字に愕然としましたが、学齢期のうちに、これから必要になる「お金」を把握することができ、大変有意義でした。

また、家族全体の「ライフプラン」を考えていくという点では、父親も一緒に参加できたら良かったかもしれません。

今後は、富山県育成会員に配布されている、「とやま版あんしんサポートノート」を片手に、親子

の年齢を考慮しながら、それぞれの「お金」と「暮らし」について、考えていきたいと思えます。また、このような機会があれば、ぜひ参加したいです。ありがとうございました。

#### 書いてみませんか？ 「あんしんサポートノート」

研修会では、参加者の皆さんに、ご家族の年齢表や、お子さんの将来の生活の収支表を記入していただきました。

お話を聞いた後で、めいめいが、ご家族の状況を書いてみましたので、今から将来に向けて、やっておくこと、考えておくことが見えてきたようでした。

「とやま版あんしんサポートノート」にも、同様の、本人と家族のライフプラン（年齢と暮らしのプランを記入）や、収支表等のページがあります。

是非、皆さんも、書いてみて実感。今からできることを考えてみませんか？

大会の成功に向けて、ご参加・ご協力を、  
よろしくお願いいたします！

## 第50回手をつなぐ育成会東海北陸大会（富山大会）

～ 創立60周年記念・富山県育成会大会 併催 ～

平成29年10月21日<sup>土</sup>・22日<sup>日</sup>

会員の皆様への詳しいご案内は、各支部をとおして配布いたします。  
また、開催要綱は、富山県手をつなぐ育成会ホームページに掲載されています。

<http://toyamaikusei.jp/>（富山県育成会で検索）

**会 場** 富山県民会館、サンシップとやま、農協会館（本人大会）、呉羽ハイツ（懇親会）

### 日 程

【第1日】平成29年10月21日(土)

12:00～	13:00～16:00	移 動	18:00～20:00
受 付	分科会		懇親会
会 場	富山県民会館 サンシップとやま 富山県農協会館		呉羽ハイツ

【第2日】平成29年10月22日(日)

9:00	9:00～9:30	9:30～10:30	10:40～11:50	～12:00
受 付	アトラクション	大会式典	シンポジウム	閉会の辞
会 場	富山県民会館 ホール			

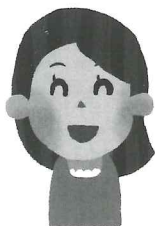
**参加費** 大会参加費 お一人様 500円（1日のみの参加も同額）

※本人、被顕彰者、分科会登壇者は不要です。

※お申込み締切後の返金はできませんので予めご了承ください。

懇親会参加費 お一人様 6,000円

※富山県民会館前～呉羽ハイツの往復無料バスが出ます。



富山では、平成19年の全国大会開催以来、  
久しぶりの大きな大会開催となります。  
今大会では、障害者総合支援法の施行3年後の  
見直しの内容等を、いち早く皆様にお届けします。



## ❖1日目 分科会 (10月21日(土) 13時～16時)

	テーマ	内容	講師・コーディネーター
1	本人大会 (話し合い) 仕事・暮らし・将来について		
2	本人大会 (レクリエーション) みんなで おどろう たのしもう		
3	働く <働き続けるために> 学齢期からの、継続した支援 地域、関係機関との連携・人づくり ライフステージに応じた働き方・選び方		又村 あおい 氏 全国育成会連合会 「手をつなぐ」編集委員
4	暮らす <地域での多様な暮らし方> 総合支援法3年後の見直しに伴う、 ライフステージに応じたこれからの暮らし方		福岡 寿 氏 日本相談支援専門員協会 顧問
5	つなぐ <親が元気なうちにできること> 将来、わが子を誰に託しますか？ 親の思い、本人の願いを、きょうだいや次世代につなぐには		細川 瑞子 氏 全国育成会連合会 権利擁護センター委員
6	地域づくり <育成会活動> 「やまゆり園事件」を受け、地域共生社会づくりに向けて、 今、育成会ができること		村上 満 氏 富山国際大学 子ども育成学部 教授

## ❖2日目 シンポジウム (22日(日) 10時40分～11時50分)

講師	又村あおい氏、福岡 寿氏、小出隆司氏 (全国育成会連合会 副会長)
テーマ	「どう変わる？どう使う？障害者総合支援法」

平成30年4月施行の、「障害者総合支援法」施行3年後の見直しについて、制度のスペシャリスト・又村さんが進行役となり、福岡さんが支援する立場から、小出さんが親の立場から、その最新のポイントと課題等を語ります。

## 富山からの発信！ ～分科会では、富山の育成会員から、取組みを発信します～

第3分科会「働く」 浅野高子さん (高岡市育成会 事務局長) 「ぶれジョブ」の取組みについて
第4分科会「暮らす」 若林清彦さん ((社福)にいかわ苑 理事長) 「富山型共生グループホーム」の取組みについて
第5分科会「つなぐ」 尾崎順子さん (となみ地域障害者成年後見福祉会 理事) 「法人後見、市民後見人養成」の取組みについて

継続は力なり!

# 私がコツコツつづけていく理由は…

皆さんは、何か継続していることはありますか？

日記や家計簿、500円玉貯金、やっではみるけれど、ついつい三日坊主になりがちですね。今回は会員さんから、コツコツ続けていることを伺いました。

## 「自分の気持ちを表現」

小矢部市 和田泰成さん

和田さんが、平成13年から毎日毎日書き続けてきた、「すまいるノート」。

今では大学ノート58冊になりました。和田さんは、高岡養護学校卒業後、製麺工場に就職しました。毎日バスで通勤し、暑くて大きな音のする工場で働いていました。40代近くになって腰痛がひどくなり、立ち仕事が難しくなったた

— 曲り角 とまる習慣 待つしつけ —

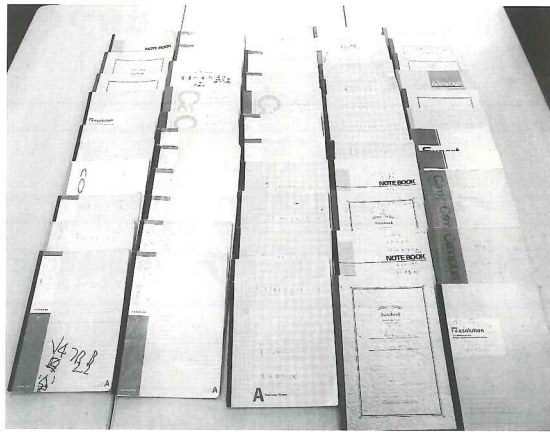
め、近くの(社福)手をつなぐとなみ野・あけぼの第二作業所へ通い始めましたが、今までバリバリ働いていた和田さんは、作業所に通い始めて、少し、違和感を感じていました。

「もつと仕事をしたい」、「もつと難しい仕事ができるのに」と、思いつつ、そんな気持ちをうまく伝えられず、時々大きな声を出したり、作業所を休んで、一人で遠出したりすることがありました。

そんな時、「支援センターすまいる」の職員からの提案で、日記(職員との交換日記)を書くことになりました。

はじめのうちは特定の職員との間で、自分の好きな事や、その日の出来事を書き、職員が返事を書くというものでしたが、次第に多くの職員や、利用者ともやり取り

するようになり、内容も話題も豊富になってきました。

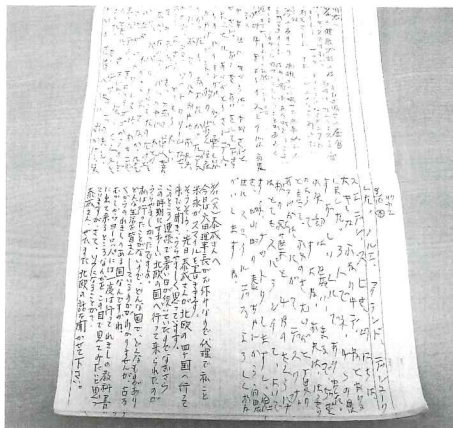


嬉しかった事・楽しかった事・悔しかったことなど、自分の気持ちを素直に書き、それを読んだ職員が、翌日からの支援を工夫するという好循環が続いています。

また長い間、書き続けることにより、「なるほど」と思わせる文章や、その表現力に驚かされるようになってきました。

今、58冊目も半分ほど埋まり、誇らしげに「もうじき59冊目にな

るよ」という和田さんです。今も時々、大きな声を出したりすることがありますが、日記を書き続けることで周囲から認められ、大きな力になっています。



よく三日坊主といいますが、ここまで継続してこられたということは、ご家族の方のサポートは勿論のこと、何より和田さん自身の根気強さがあればこそ。

まさしく、「継続は力なり」ですね。和田さんの「すまいるノート」が、60冊、100冊と増えていくように応援しています。

楽しく続けていってください。

「新聞投稿で、

障害を知ってもらおう」

富山市 宮田真知子さん

2年前から北日本新聞の「読者のひろば」に投稿するようになりました。

最初のうちは高山線の問題や政務活動費の不正使用問題などを取り上げていましたが、「私には、私にしか書けないことがあるはず」と思い、福祉に関することを書くようになりました。

ある時、息子の四つ上の先輩のお母さんから、「新聞を読んで思わず電話をしました」と、自宅に電話をいただいた時はとても驚きました。改めて新聞の凄さを痛感しました。

育成会の会員の方々に、「いつも読んでいますよ」と言われるのは勿論嬉しいのですが、全く福祉には無関係な方々に読まれることに喜びを感じます。

私の姪、同級生、地域の人、OL時代の同僚などから「また新聞に出ていたね」と言われると、心

の底でガツポーズしています。

知的障がい者だって、立派な社会の一員なんです。

もっと、多くの人に彼らの実情について知っていただいで、力になって欲しいと思います。

どなたか私と一緒に思いの丈を投稿してみませんか？



事務局では、宮田さんの投稿を、「小さな理解啓発活動」と呼んで、掲載されるのを楽しみにしています。掲載されたものから、2本の記事を紹介します。

何気ない日常から、障害のある人たちが地域の中で暮らしている様子、どんなことに困っているのか、どのように接してもらいたいのか、伝わってきます。

さて、次の掲載はいつでしょうか？どんなことが書かれているのか、楽しみです。

傷つけない心遣い

富山市 宮田真知子 (主婦 53歳)

スーパーのレジに並んでいると、隣のレジで客と店員がもめていました。よく見ると、客は初老のダウン症の女性でした。

どうやら所持金よりも多く買い物をしてしまったようでした。レジ担当はアルバイトの若い男性で、助けてもらおうとベテランの女性店員を呼んだところでした。

女性店員は女性に対して、「一番ほしい商品は、どれとどれかな？」と聞いていました。女性がいくつか選ぶと、「あとの商品は元に戻しくね。また今度来たときに買ってね」と話し掛けていました。

見事な応対と、客を傷つけない心遣いに思わず目頭が熱くなりました。「お金が足りないよ」と突き返されるより、「また買ってね」と言われ、女性もこの次第をよく理解し、気持ちよく帰れたに違いありません。

私にとっても、心温まる一日となりました。

2017.2.11 北日本新聞

地域の理解が必要

富山市 宮田真知子 (主婦 53歳)

富山も少しずつですが、行動援護のヘルパーが増えてきました。行動援護とは、重度の知的障害や精神障害の方に対して、家の中で家族に代わって介助したり、外出援助することをいいます。

ヘルパーだけでは、どうにもならないこともあります。公共の場や交通機関で大きな声を上げたり、パニックになることは、よくあることです。そんなとき、「この障害者は見通しが付かなくて、少し混乱しているだけなのだ」と、思っていたきたいのです。混乱が治るまで、そっと見守っていただきたいのです。

障害者は、いつもパニックになっているわけではありません。たまたま不安な気持ちが先に立っただけなのです。

ヘルパーは、障害者が少しでも社会参加できるよう努力を重ねていますが、ヘルパーの力だけでは無理があります。街の人々の理解なくして社会参加は、到底できないのです。来年は、富山が障害者にとって、さらに過ごしやすい街になるよう祈っています。

2016.12.18 北日本新聞

**平成28年度 決算**

平成28年 4 月 1 日～平成29年 3 月31日

**【運営の部】**

**(収入の部)**

(単位：円)

科 目	平成28年度 予算額	平成28年度 決算額	比較増減 (決算 - 予算)	備 考
制度運営費	5,234,300	5,062,990	△171,310	H27年2,008人→H28年2,107人
雑 収 入	600	105	△495	
繰 越 金	5,602,160	5,602,160	0	
合 計	10,837,060	10,665,255	△171,805	

**(支出の部)**

(単位：円)

科 目	平成 28 年度 予算額	平成 28 年度 決算額	比較増減 (決算 - 予算)	備 考
一般管理費	2,320,000	2,291,344	△ 28,656	
会議費	100,000	61,146	△ 38,854	
旅費	220,000	262,980	42,980	全サポ総会、ブロック会議等
通信費	150,000	118,673	△ 31,327	
消耗品費	130,000	126,611	△ 3,389	
事務委託費	1,220,000	1,221,934	1,934	口座振替手数料、事務委託等
共益費	500,000	500,000	0	県育成会へ
全国年会費	434,000	419,900	△ 14,100	
全国入会金	60,000	36,300	△ 23,700	
事業費	2,670,000	1,958,636	△ 711,364	
日常生活相談支援事業	900,000	618,000	△ 282,000	各支部等助成
就労相談支援事業	300,000	72,000	△ 228,000	エリア助成
権利擁護相談支援事業	200,000	205,042	5,042	合同研修会・権利擁護セミナー
啓発事業	300,000	209,000	△ 91,000	エリア助成
入会記念品	950,000	834,830	△ 115,170	県育成会会報 4 回・県大会冊子
予備費	20,000	19,764	△ 236	心のとも 3 色ボールペン
繰越金	5,353,060	0	△ 5,353,060	
繰越金	0	5,959,075	5,959,075	
合 計	10,837,060	10,665,255	△ 171,805	

**【保険料の部】**

**(収入の部)**

(単位：円)

科 目	平成28年度 予算額	平成28年度 決算額	比較増減 (決算 - 予算)	備 考
保険料	33,901,300	33,275,870	△ 625,430	H27年2,008人→H28年2,107人

**(支出の部)**

(単位：円)

科 目	平成28年度 予算額	平成28年度 決算額	比較増減 (決算 - 予算)	備 考
保険料	33,901,300	33,275,870	△ 625,430	

**平成29年度 事業報告**

**1. サポート協会 3 事業**

- ・日常生活相談支援事業  
実施件数 15件 618,000円
- ・就労相談支援事業  
エリア助成 2エリア実施 72,000円
- ・権利擁護相談支援事業  
エリア助成 4エリア実施 (6件)  
209,000円

**2. 知的障害者相談員研修**

- ・平成28年 6 月25日(土)  
役員・支部長・相談員合同研修会 (県育成会と共催)  
「障害を理由とする差別解消の推進に向けて」  
講師 県障害福祉課 広域専門相談員 岡田 千秋氏  
土田 敦子氏
- 「障害福祉施策の動向について」  
講師 県障害福祉課 自立支援係長 杉田 尚美氏
- ・平成28年 7 月22日(金)  
役員・支部長・相談員合同研修会 (県育成会と共催)  
「親の会としての育成会活動について」  
講師 浜松市手をつなぐ育成会 会長  
(全国手をつなぐ育成会連合会副会長) 小出 隆司氏

## 平成29年度 予算

平成29年4月1日～平成30年3月31日

## 【運営の部】

## (収入の部)

(単位：円)

科 目	平成28年度 予算額	平成28年度 決算額	平成29年度 予算額	備 考
制度運営費	5,234,300	5,062,990	5,699,500	A @2,190*1,100人 1,970*40人 B @3,190*950人 3,020*60人
雑 収 入	600	105	100	
繰 越 金	5,602,160	5,602,160	5,959,075	
合 計	10,837,060	10,665,255	11,658,675	

## (支出の部)

(単位：円)

科 目	平成28年度 予算額	平成28年度 決算額	平成29年度 予算額	備 考
一般管理費	2,320,000	2,291,344	2,480,000	
会議費	100,000	61,146	100,000	
旅費	220,000	262,980	320,000	全サポ総会、ブロック会議等
通信費	150,000	118,673	150,000	
消耗品費	130,000	126,611	160,000	保険改定パンフレット・DM用消耗品他
事務委託費	1,220,000	1,221,934	1,250,000	口座振替手数料、事務委託等
共益費	500,000	500,000	500,000	県育成会へ
全国年会費	434,000	419,900	430,000	200円×2,150人
全国入会金	60,000	36,300	30,000	300円×100人
事業費	2,670,000	1,958,636	2,890,000	
日常生活相談支援事業	900,000	618,000	900,000	各支部等助成
就労相談支援事業	300,000	72,000	300,000	エリア助成
権利擁護相談支援事業	200,000	205,042	200,000	相談員研修会
啓発事業	950,000	834,830	1,150,000	ブロック大会、会報・県大会冊子助成
入会記念品	20,000	19,764	40,000	心のとも3色ボールペン100本
予備費	5,353,060	0	5,828,675	
繰越金	0	5,959,075	0	
合 計	10,837,060	10,665,255	11,658,675	

## 【保険料の部】

## (収入の部)

(単位：円)

科 目	平成28年度 予算額	平成28年度 決算額	平成29年度 予算額	備 考
保険料	33,901,300	33,275,870	36,556,700	A @14,810*1,100人 11,960*40人 B @19,810*950人 16,130*60人

## (支出の部)

(単位：円)

科 目	平成28年度 予算額	平成28年度 決算額	平成29年度 予算額	備 考
保険料	33,901,300	33,275,870	36,556,700	A @14,810*1,100人 11,960*40人 B @19,810*950人 16,130*60人

## 「心のともし運動」鉛筆等頒布のご協力ありがとうございます

県内の小・中・高の生徒、先生、保護者の皆様、毎年知的障害のある人達へのご理解・ご支援の一環として、鉛筆等頒布「心のともし運動」にご協力いただき、ありがとうございます。

平成28年度も皆さまの多大なご協力のお陰で、当会では事業を充実させることができました。厚くお礼申し上げます。

なお、収益金のうち、170,000円を県特別支援教育研究会に助成させていただきました。

**合計 851,363 円**

**県特別支援教育研究会に 170,000 円**

平成29年度につきましても、ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

	小学校		中学校		高等学校		個数合計	校数合計
	個数	校数	個数	校数	個数	校数		
鉛筆	15,274	99	1,004	17	656	17	16,934	133
赤鉛筆	1,002	90	56	14	37	10	1,095	114
多機能ペン	486	86	118	16	91	11	695	113
替芯	258	71	227	16	108	12	593	99
消ゴム	2,926	97	1,173	17	320	14	4,419	128
マーカーペン	488	89	128	16	49	11	665	116
ネームペン	1,655	96	393	18	102	13	2,150	127
ボールペン	272	73	106	6	1	1	379	80

### 育成会の動き

期 日	内 容
<b>【報告】</b>	
5/10(水)	県障害者スポーツ協会理事会 (県民会館)
5/11(木)	東海北陸手をつなぐ育成会協議会 理事会 (サンシップとやま)
5/14(日)	本人活動部会 (サンシップとやま)
5/17(水)	共同募金助成決定書交付式 (サンシップとやま)
5/21(日)	県障害者スポーツ大会 陸上競技会 (総合運動公園)
5/26(金)	県議会自民党政調会 (平成29年度予算要望回答) (県民会館)
5/30(火)	サポート協会理事会 (サンシップとやま)
6/2(火)	とやま地域共生型福祉推進特区地区協議会 (県民会館)
6/4(日)	富山県手をつなぐ育成会 定期総会・全体研修会 (呉羽ハイツ)
6/6(火)	全国サポート協会社員総会 (東京)
6/8(木)	県障害者社会参加推進協議会 (サンシップとやま)
6/22(木)	県社会福祉協議会 評議員会 (サンシップとやま)
6/23(金)	学齢期部会研修会 「お金とライフプラン」 (サンシップとやま)
6/25(日)	TDF福祉フォーラム (県民会館)
6/30(金)	全国手をつなぐ育成会連合会総会 (東京)
6/30(金)	恵風会創立30周年記念式典 (婦中ふれあい館)
7/4(火)	TDF事務局会議
7/5(水)	県小学校長会・中学校長会 (教育記念館)
7/6(木)	東海北陸大会 企画運営会議 (サンシップとやま)
7/12(水)	サポート協会 理事会・審査会 (サンシップとやま)
7/14(金)	障害者110番担当者研修会 (東京)
7/22(土)	高志リハビリ グランドオープン式典

期 日	内 容
7/23(日)	研修会 「障害のある方と、親のためのお金とライフプラン」 (サンシップとやま)
7/25(火)	県共生フォーラムプロポーザル (北陸スクエア)
7/26(水)	県民福祉推進会議 (サンシップとやま)
7/27(木)	東海北陸地区特別支援教育研究会大会 (県民会館)
7/28(金)	東海北陸大会 企画運営会議 (サンシップとやま)
7/29(土)	本人活動部会 (サンシップとやま)
8/1(火)	施設部会、地域事業所部会 (サンシップとやま)
8/3(木)・4(金)	障害者相談員 (3障害) 活動強化研修会 (金太郎温泉)
<b>【予定】</b>	
8/9(水)	県特別支援学校校長懇談会 (呉羽ハイツ)
9/6(木)	ふれあいスポーツ大会 にかわ地区 (ありそドーム)
9/15(金)	ふれあいスポーツ大会 射水・高岡・氷見地区 (高岡市民体育館)
9/23(土)・24(日)	第4回手をつなぐ育成会連合会 全国大会 (札幌)
9/26(火)	県特別支援学校PTA連合会研修会 (サンフォルテ)
9/28(木)	ふれあいスポーツ大会 となみ地区 (富山県西部体育センター)
9/29(金)	ふれあいスポーツ大会 富山地区 (富山県総合体育センター)
10/21(土)・22(日)	第50回東海北陸手をつなぐ育成会大会・富山大会 (県民会館 他)
10/28(土)~30(月)	全国障害者スポーツ大会 (愛媛県)

横断は 目で確認 手で合図